



市立博物館勤務になりました

令和6年4月から釧路市立博物館に勤務しております仲谷博章と申します。再任用職員として2年目となります。公務員として44年目を迎えましたが、釧路市教育委員会には、生涯学習部に在籍2年、学校教育部には11年在籍しており、公務員生活のうち約3分の1を教育委員会に勤務しています。

私が小中学生の頃には、市立博物館は鶴ヶ岱公園内(今の武道館)にあったのを記憶していて、毛綱毅曠建築物である現在の博物館は、市役所に奉職した後に、今の位置に建設されており

ますが、館内を見学した記憶はありません。

建設当時は、総務部契約管財課工事契約係に在籍しており、まさに建設工事の契約をしており、博物館にも当時の書類が残っており、懐かしさを覚えました。

博物館での仕事は、施設管理、庶務事務や文化財保護業務を行っており、機会があって全館を見て回った際に気が付いたことは、施設の老朽化が進んでおり、また収蔵庫が手狭になっていると感じたところです。

最近、博物館へ太陽光発電施設の建設予定地に対して埋蔵文化財包蔵地等の照会件数が、月平均5件程度あり、担当する学芸員に大変な負担がかかっているようです。私は、学芸員ではないので、最初の照会案件の回答をまとめて、事業者等に回答する仕事を行っています。

この地元には沢山の文化財・遺跡や天然記念物の生息地等が存在しており、これらを保護することが大変貴重であると感じながら仕事をしております。

また、博物館で開催している様々な分野の企画展や展示を行っており、その素晴らしさをSNSの活用で、私の周りにいる方々にお知らせしたいと思っており、より多くの博物館のファンを増やすことができると感じております。

今後とも、市役所で多くの培った経験を活かして、博物館の業務はもとより、釧路市の発展のために僅かではありますが、尽力してまいりたいと考えております。

最後に、皆さんに愛される博物館にしていけるよう、頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(仲谷 博章)

未来の博物館

令和6年4月より釧路市立博物館に異動になりました、疋田 頌子(ひきたしょうこ)と申します。

異動先が博物館と聞いて最初に思ったのが、「私、博物館について何も知らない!」でした。地元が釧路市ではないということを言い訳にしつつ、お恥ずかしながら博物館に足を運んだことがなかった私は、まず博物館の勉強から始める形となりましたが、半年経った今でもまだまだ知らないことがたくさんあり、日々周りの方々に助けられながら今に至っております。

そんな私がまず感じた博物館の魅力は、常設している展示ももちろんですが、その展示を支える「毛綱毅曠氏の建築」そのものでした。美術短大を

卒業した身(と言っても油彩専攻ですが…)としては、館内で使用されている素材の選択や色彩構成の妙に只々驚くばかりでした。とても建設されて40年以上が経過しているとは思えない現代的なデザインに、国内外の方が魅了されているのも納得です。この建築の素晴らしさは、ぜひ来ていただいて体験してほしいと思わずにはいられません。

また、ここで勤務をしていて最近よく感じるのが「博物館は未来へと受け継いでいく施設なんだ」ということです。

博物館には小さいお子さんもよく来館されます。大きな動物の剥製を前に心躍らせた笑い声や、その迫力に驚き、時には涙を流す声が事務室まで聞こえてきたときは、思わず事務の職員たちと笑顔になってしまいましたが、博物館

はそんな子どもたちを受け入れる寛容さを持ち合わせた、子供たちにとってかけがえのない経験をさせてくれる施設だと感じるのです。

この子たちの中から、将来ここで働く子も出てきてくれるのかなあと、子どもたちに手を振って見送りながら、そんなことを勝手に想像しています。その一助になればとても素晴らしいことですし、そうなれるように日々勉強を重ねていきたいと思っております。

子供たちが大人になって、その子供たちがまたこの博物館を見てもらえるように、日々変わらない良さも持ちつつ、企画展などで新たな発見もしていただきながら、皆様に楽しんでいただけるよう、微力ながらではありますが尽力したいと思います。

(疋田 頌子)